



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月12日

上場会社名 株式会社トランスジェニック

上場取引所 東

コード番号 2342 URL <http://www.transgenic.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福永 健司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理財務部長 (氏名) 渡部 一夫

TEL 092-288-8470

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	4,680	9.8	41	10.3	30	102.9	25	
2020年3月期第2四半期	5,191	20.1	45	55.5	14	79.8	41	

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 41百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 29百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	1.47	
2020年3月期第2四半期	2.41	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	8,342	4,599	53.5	256.82
2020年3月期	7,571	4,416	58.3	254.29

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 4,460百万円 2020年3月期 4,416百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	4.9	450	159.0	400	321.3	280		16.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2020年8月12日に公表した決算短信では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、合理的な算定が困難であったため、2021年3月期の通期連結業績予想を未定としていましたが、この度、最近の状況を踏まえ、通期連結業績予想をお知らせいたします。詳細については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」及び本日(2020年11月12日)公表した「2021年3月期通期連結業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2 社 (社名) 医化学創薬株式会社、株式会社キヅキ、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	17,369,141 株	2020年3月期	17,369,141 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2021年3月期2Q	1,421 株	2020年3月期	1,421 株
------------	---------	----------	---------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期2Q	17,367,720 株	2020年3月期2Q	17,367,714 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績見通しのご利用に当たっては、四半期決算短信(添付資料)5ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済活動が制限され、設備投資は急激な悪化後から緩やかな回復傾向にあるものの、雇用環境の悪化が見られました。

当社グループにつきましても、当第2四半期連結累計期間は新型コロナウイルス感染症拡大により事業活動にとっては厳しい局面が生じましたが、顧客や従業員等の健康・安全確保や事業への影響を最小限に抑える必要な対応を最優先としつつ、テレワーク体制の順次導入などにより新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら事業活動の維持に努め、概ね全事業所において通常稼働を維持することができました。このような環境の中、当社グループは、次のような活動を行いました。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更し、従来の「CRO事業」と「診断解析事業」とを統合し、「創薬支援事業」として区分表示しております。

創薬支援事業においては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、検査数の増加に対する支援を行うため、株式会社ジェネティックラボが札幌市及び北海道から新型コロナウイルス検査（PCR検査）の受託を開始いたしました。また、非臨床試験の受託につきましても、株式会社安評センターにおいて、強みである農化学薬品等の安全性試験に加え、前期に大型動物飼育管理施設の整備を完了したことを受け、従来の中・小型動物に加え大型動物の非臨床試験の新規受注に注力いたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大により、非臨床試験受託用の動物輸入が制限され、非臨床試験が計画通り進まないなどの影響を受けたほか、臨床事業においては被験者の募集及び試験実施が困難な状況が発生いたしました。なお、当第2四半期においては、試験の延期も解消し、新規受注も徐々に回復傾向にあります。

TGBS事業においては、Eコマース事業において新型コロナウイルス感染症拡大に伴う巣ごもり需要を意識した商品仕入れにより粗利の確保に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策に対する必要な対応を行いながら仕入・出荷体制の維持に努めました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、創薬支援事業のPCR検査の受託売上や、2020年3月に連結グループに加入したギャラククス貿易株式会社（TGBS事業のうち「Eコマース」）の売上が寄与したものの、株式会社TGM（TGBS事業のうち「その他」）において、景気が低迷する中で企業が設備投資を抑制したため前期のような大型の機械販売がなかったことや、新型コロナウイルス感染症拡大による創薬支援事業における非臨床試験及び臨床試験の売上低下、消費低迷による株式会社アウトレットプラザの売上減少等が影響し、4,680,609千円（前年同期比9.8%減）となりました。

また、営業利益につきましても、創薬支援事業におけるPCR検査の受託、TGBS事業のEコマース事業における、子会社の増加及び粗利の改善により利益増が大きく寄与したものの、上記の通りTGBS事業の「その他」事業の売上減少が影響し、41,128千円の利益（前年同期比10.3%減）となりました。

なお、経常利益につきましても、前第2四半期連結累計期間に34,607千円計上された買収関連費用が当第2四半期連結累計期間においては22,250千円の計上であったことや、持分法適用関連会社であった医化学創薬株式会社を2020年4月に連結子会社としたため前第2四半期連結累計期間に11,828千円計上された持分法による投資損失の計上がなくなったことなどから、30,285千円の利益（前年同期比102.9%増）となりました。また、固定資産の減損損失などの特別損失24,331千円や「法人税、住民税及び事業税」を22,856千円計上したものの、減資に伴う繰延税金資産の回収可能性の見直しにより、△40,224千円（△は利益）の法人税等調整額を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、25,447千円の利益（前年同期は41,820千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、創薬支援事業の売上高は季節的変動が著しく、当社グループの売上高は下半期（特に第4四半期）に集中する傾向にあります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同期比		金額 (千円)	前年同期比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
創薬支援事業	1,225,684	57,913	5.0	3,164	23,617	—
TGBS事業	3,464,360	△559,676	△13.9	115,545	△52,092	△31.1
(Eコマース)	(2,542,953)	(△110,827)	△4.2	(109,316)	(84,022)	332.2
(その他)	(921,406)	(△448,848)	△32.8	(6,228)	(△136,115)	△95.6

(注) 括弧内の金額は、TGBS事業の各内訳金額であります。

① 創薬支援事業

当事業では、創薬の初期段階である探索基礎研究・創薬研究から、動物による非臨床試験、臨床試験、病理診断まで、創薬のあらゆるステージに対応できるシームレスなサービスを行っております。その主なものとして、遺伝子改変マウスの作製受託、抗体作製受託のほか、医薬品、農薬・食品関連物質などの薬効薬理試験及び安全性試験などの非臨床試験の受託や臨床試験の受託、また、遺伝子解析受託サービス及び個別化医療に向けた創薬支援サービス、豊富な診断実績をもつ専門医による高品質な病理診断サービスを行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、非臨床試験及び臨床試験において一部の試験計画の延期や製薬企業等からの新規受注が一時期見合わせとなったことから売上低下を余儀なくされました。なお、当第2四半期においては、試験の延期も解消し、新規受注も徐々に回復傾向にあります。その一方、新型コロナウイルス検査(PCR検査)の受託を開始いたしました。検査数の拡大に伴い、第1四半期連結会計期間と比較して当第2四半期連結会計期間は受託件数が伸びました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は前年同期比57,913千円の増収(前年同期比5.0%増)、営業損益につきましても3,164千円の利益となり、前年同期比23,617千円の増益(前年同期は20,452千円の損失)となりました。

② TGBS事業

当事業は、株式会社TGビジネスサービスによる事業であり、M&Aによる新規事業の推進と幅広い分野における事業継承及び事業再生分野に係る助言・支援サービスを行っております。

Eコマース事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う消費低迷の影響を受ける中、前年同期は消費税率引き上げ前の駆け込み需要があったこともあり、株式会社アウトレットプラザの売上は前年同期比で減少いたしました。しかしながら、巣ごもり需要に対応した商品の仕入れに努め、粗利率は改善したほか、2020年3月に連結グループに加入したギャラククス貿易株式会社の売上及び利益も大きく寄与し、売上高は前年同期比で110,827千円の減収(前年同期比4.2%減)ながらも、営業損益につきましても109,316千円の利益となり、前年同期比84,022千円の大幅な増益(前年同期比332.2%増)となりました。

また、「その他」事業につきましては、株式会社TGMにおいて前第2四半期連結累計期間にあった大型の機械販売売上が、景気が低迷する中で企業が設備投資の抑制により当第2四半期連結累計期間にはなかったことや、その他の子会社も景気低迷の影響を受けたことから、売上高は前年同期比で448,848千円の減収(前年同期比32.8%減)、営業損益につきましても6,228千円の利益となり、前年同期比136,115千円の減益(前年同期比95.6%減)となりました。

この結果、TGBS事業の当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は前年同期比559,676千円の減収(前年同期比13.9%減)、営業損益につきましても115,545千円の利益となり、前年同期比52,092千円の減益(前年同期比31.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は5,020,160千円となり、前連結会計年度末に比べ686,346千円増加いたしました。これは主に、仕掛品が102,564千円、商品及び製品が89,215千円それぞれ増加したほか、医化学創薬株式会社の連結子会社化及び子会社の資金調達により現金及び預金が730,845千円増加した一方、受取手形及び売掛金が249,608千円減少したことによるものであります。

固定資産は3,322,350千円となり、前連結会計年度末に比べ84,479千円増加いたしました。これは主に、購入による取得及び医化学創薬株式会社の連結子会社化に伴い有形固定資産が118,368千円、無形固定資産が42,488千円増加した一方、主として医化学創薬株式会社の連結子会社化に伴い、投資有価証券が94,920千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,889,999千円となり、前連結会計年度末に比べ114,716千円減少いたしました。これは主に、前受金が296,902千円増加した一方、買掛金が148,823千円、短期借入金が150,000千円、その他流動負債が121,683千円減少したことによるものであります。

固定負債は1,853,440千円となり前連結会計年度末に比べ703,179千円増加いたしました。これは主に、子会社の資金調達により社債が83,000千円、長期借入金が574,503千円それぞれ増加したことによるものであります。なお、長期借入金の増加は、新型コロナウイルス感染症の影響に備えて手元資金を厚くし、財務基盤の安定性をより一層高めるための借入れであります。

(純資産)

純資産は4,599,070千円となり、前連結会計年度末に比べ182,363千円増加いたしました。これは主に、持分法適用関連会社であった医化学創薬株式会社の連結子会社化により、非支配株主持分が138,462千円増加したことによるものであります。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは134,992千円の収入（前年同期は186,974千円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益5,954千円に減価償却費86,791千円などの非資金費用、売上債権の減少額281,866千円、前受金の増加額296,902千円を加算調整した一方、たな卸資産の増加額220,005千円、仕入債務の減少額148,823千円を減算調整したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは39,827千円の支出（前年同期は39,637千円の支出）となりました。これは主に、貸付金の回収による収入123,125千円により資金が増加した一方、出資金の払込による支出101,200千円、株式会社キツキの連結子会社化に伴う支出42,076千円により資金が減少したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは489,117千円の収入（前年同期は345,973千円の収入）となりました。これは主に、社債の発行による収入98,890千円、長期借入れによる収入765,000千円により資金が増加した一方、短期借入金の返済による支出150,000千円、長期借入金の返済による支出135,276千円、長期未払金の返済による支出57,805千円により資金が減少したためであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ584,370千円増加したほか、医化学創薬株式会社の連結子会社化に伴う現金及び現金同等物の増加146,474千円もあり、2,334,175千円（前年同期末1,769,501千円）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の通期業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による事業活動への影響を合理的に算定することが困難であったことから未定としておりましたが、この度、感染予防と経済活動の共存に向けた動きが活発化し、経済活動が徐々にではありますが再開されている状況を踏まえ、現時点で入手可能な情報及び上半期の実績等に基づき通期連結業績予想を算出いたしました。

詳細につきましては、本日公表の「2021年3月期通期連結業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、今回公表いたしました業績予想は、当第2四半期連結累計期間の業績をもとに、年度後半に向けて収益が回復傾向にあることを前提とし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による再度の緊急事態宣言の発令等に伴う経済活動への制限につきましては想定しておりません。

また、新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として不透明であり、当社グループを取り巻く環境の不確実性が大きく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,603,330	2,334,175
受取手形及び売掛金	1,021,243	771,635
有価証券	200,000	200,000
商品及び製品	711,637	800,852
仕掛品	414,413	516,977
原材料及び貯蔵品	54,662	90,530
その他	329,491	306,785
貸倒引当金	△965	△796
流動資産合計	4,333,813	5,020,160
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,562,815	1,632,647
減価償却累計額	△502,840	△535,245
建物及び構築物（純額）	1,059,974	1,097,402
土地	812,230	812,230
その他	811,892	1,017,450
減価償却累計額	△614,161	△738,779
その他（純額）	197,731	278,671
有形固定資産合計	2,069,935	2,188,304
無形固定資産		
のれん	528,425	568,527
その他	12,118	14,505
無形固定資産合計	540,544	583,033
投資その他の資産		
投資有価証券	312,944	218,023
その他	432,032	348,076
貸倒引当金	△117,585	△15,086
投資その他の資産合計	627,390	551,012
固定資産合計	3,237,870	3,322,350
資産合計	7,571,684	8,342,510

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	305,367	156,543
未払金	332,775	332,794
短期借入金	500,000	350,000
1年内償還予定の社債	26,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	171,067	226,287
未払法人税等	75,074	20,072
前受金	321,968	618,870
賞与引当金	13,988	18,639
その他	258,474	136,791
流動負債合計	2,004,715	1,889,999
固定負債		
社債	479,000	562,000
長期借入金	556,805	1,131,308
長期未払金	57,805	67,900
退職給付に係る負債	25,312	25,254
その他	31,338	66,976
固定負債合計	1,150,261	1,853,440
負債合計	3,154,976	3,743,439
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,484,241	50,000
資本剰余金	1,232,307	4,164,728
利益剰余金	△205,106	322,162
自己株式	△1,725	△1,725
株主資本合計	4,509,717	4,535,165
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△91,344	△73,285
為替換算調整勘定	△1,954	△1,561
その他の包括利益累計額合計	△93,299	△74,846
新株予約権	200	200
非支配株主持分	89	138,551
純資産合計	4,416,707	4,599,070
負債純資産合計	7,571,684	8,342,510

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	5,191,780	4,680,609
売上原価	4,369,323	3,758,217
売上総利益	822,457	922,392
販売費及び一般管理費	776,588	881,263
営業利益	45,868	41,128
営業外収益		
受取利息	2,406	1,594
保険解約返戻金	42,297	24,424
その他	3,569	16,376
営業外収益合計	48,273	42,395
営業外費用		
支払利息	10,610	13,012
持分法による投資損失	11,828	—
社債発行費等	7,937	1,109
買収関連費用	34,607	22,250
その他	14,230	16,866
営業外費用合計	79,213	53,238
経常利益	14,928	30,285
特別損失		
段階取得に係る差損	—	8,047
減損損失	—	9,356
固定資産除却損	7,962	—
事業再編損	—	6,926
特別損失合計	7,962	24,331
税金等調整前四半期純利益	6,965	5,954
法人税、住民税及び事業税	41,579	22,856
法人税等調整額	7,206	△40,224
法人税等合計	48,786	△17,367
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△41,820	23,322
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△2,125
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△41,820	25,447

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△41,820	23,322
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,522	18,058
為替換算調整勘定	△4,172	393
その他の包括利益合計	12,350	18,452
四半期包括利益	△29,470	41,774
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△29,470	43,899
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△2,124

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,965	5,954
減価償却費	70,499	86,791
減損損失	—	9,356
のれん償却額	40,513	39,848
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,717	△2,762
受取利息及び受取配当金	△2,406	△1,594
保険解約返戻金	△42,297	△24,424
支払利息	10,610	13,012
持分法による投資損益(△は益)	11,828	—
段階取得に係る差損益(△は益)	—	8,047
売上債権の増減額(△は増加)	76,248	281,866
たな卸資産の増減額(△は増加)	△205,269	△220,005
仕入債務の増減額(△は減少)	49,276	△148,823
未払金の増減額(△は減少)	△67,512	△38,331
前受金の増減額(△は減少)	241,399	296,902
その他	74,149	△153,762
小計	266,723	152,076
利息及び配当金の受取額	683	1,341
利息の支払額	△12,611	△13,009
法人税等の支払額	△67,821	△62,941
法人税等の還付額	—	57,524
営業活動によるキャッシュ・フロー	186,974	134,992
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△146,252	△37,925
出資金の払込による支出	△10	△101,200
貸付けによる支出	△10,000	△32,000
貸付金の回収による収入	16,070	123,125
保険積立金の解約による収入	45,497	51,664
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△42,076
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	75,425	—
その他	△20,368	△1,415
投資活動によるキャッシュ・フロー	△39,637	△39,827
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行による収入	300,000	98,890
社債の償還による支出	△6,000	△13,000
短期借入金の増減額(△は減少)	△20,000	△150,000
長期借入れによる収入	200,000	765,000
長期借入金の返済による支出	△72,411	△135,276
リース債務の返済による支出	△2,895	△8,691
長期未払金の返済による支出	△57,805	△57,805
新株予約権の行使による株式の発行による収入	4,885	—
子会社の自己株式の取得による支出	—	△10,000
その他	200	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	345,973	489,117
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,330	88
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	491,979	584,370
現金及び現金同等物の期首残高	1,277,521	1,603,330
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	146,474
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,769,501	2,334,175

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年6月17日開催の第22期定時株主総会において、資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分について決議し、2020年8月28日を効力発生日として資本金3,434,241千円、資本準備金1,316,795千円をそれぞれ減少し、同額をその他資本剰余金に振替えました。

また、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金501,821千円を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補いたしました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金50,000千円、資本剰余金4,164,728千円、利益剰余金322,162千円となっております。

なお、これによる株主資本の合計金額への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、現時点でもなお大きな脅威として存在し、予断を許さない状況が続いています。

当社グループは、非臨床試験及び臨床試験において一部の試験計画の延期や製薬企業等からの新規受注が一時見合わせとなったこと等の影響を受けましたが、徐々に通常の事業活動を行なえることを前提として会計上の見積りを行っております。

その結果、前連結会計年度の有価証券報告書の「第5 1. (1) 連結財務諸表 注記事項 (追加情報)」に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期や会計上の見積りに用いた仮定に重要な影響はありません。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が当該前提と乖離する場合には、当社グループの財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	創薬支援事業	TGBS事業					
		Eコマース	その他	小計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,167,770	2,653,755	1,370,255	4,024,010	5,191,780	-	5,191,780
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	26	-	26	26	△26	-
計	1,167,770	2,653,781	1,370,255	4,024,036	5,191,807	△26	5,191,780
セグメント利益又は損失(△)	△20,452	25,294	142,344	167,638	147,185	△101,316	45,868

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△101,316千円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	創薬支援事業	TGBS事業					
		Eコマース	その他	小計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,216,284	2,542,918	921,406	3,464,325	4,680,609	-	4,680,609
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,400	35	-	35	9,435	△9,435	-
計	1,225,684	2,542,953	921,406	3,464,360	4,690,044	△9,435	4,680,609
セグメント利益	3,164	109,316	6,228	115,545	118,710	△77,581	41,128

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用△77,581千円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する情報

第1四半期連結会計期間より、今後の事業展開を踏まえて、グループ内の体制を見直しており、これに伴い業績管理区分も見直しております。この結果、報告セグメントは、従来の「CRO事業」を「診断解析事業」と統合し、「創薬支援事業」としております。

これにより、従来の「CRO事業」、「診断解析事業」及び「TGBS事業」の3区分から、「創薬支援事業」及び「TGBS事業」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。